

## 令和2年度 麻溝地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年10月9日(金)午後7時から午後8時30分まで
- 2 場 所 麻溝公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、隠田副市長、菅谷南区長、鈴木危機管理局長、石井市長公室理事、阿部南区副区長  
岩本市民局次長
- 4 出席委員等 24人
- 5 傍聴者 2人
- 6 懇談会の要旨

テーマ1	風水害時の避難対策の充実について
概要	<p>令和元年東日本台風(台風第19号)では、麻溝地区内でも避難指示が出され、麻溝公民館、夢の丘小学校、麻溝小学校といった避難場所に、約300名が避難した。また隣接の新磯地区では、相陽中学校に500名以上の方が避難されたと聞いている。その結果、避難場所の運営等に課題が見つかった。さらに新型コロナウイルス等の感染症予防対策の取組も求められることから、市と地域との連携による避難対策の充実が必要であると考えている。</p> <p>避難所運営協議会の設置されていない避難場所も含め、市と地域が連携して避難場所の運営を行う体制や役割等について懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>麻溝地区内各小学校の避難所運営協議会では、地震災害を想定した役割が定められ、定期的に訓練を行っているが、風水害時に設置される避難場所については特に役割が定められていない。</p> <p>昨年の台風による避難時には、風水害時避難場所の運営で人員不足になった事例があったことから、避難所運営協議会や自治会連合会では、風水害時にも避難場所の運営を市職員と地域住民が協力して担う体制づくりが必要ではないかとの意見が出ている。</p> <p>コロナ禍での感染症予防対策、それと併せた高齢者・要援護者等の対策も含まれると考えている。また、避難者の受け入れに関しては、居用スペースの算定、ペットの同行避難についても課題があった。</p>
市の取組状況等	<p>昨年の東日本台風や新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、可能な限り、多くの避難場所を確保するため、風水害時避難場所の拡充を行っている。南区においては、従前の15箇所から14箇所追加指定をし、合わせて29箇所の避難場所に拡充をしている。従前からある、夢の丘小学校、麻溝小学校については、風水害時避難場所として体育館を開放していたが、分散避難対策として普通教室の開放も行っている。ソーシャルディスタンスが取れるよう、一人当たりの算定面積を2m×2mの4㎡として算定した場合、夢の丘小学校では体育館が200名程度、教室で430名程度、合計で630名程度、麻溝小学校では体育館が120名程度、教室で410名程度、合計で530名程度、麻溝公民館では124名が三密を避けた避難が可能であるとしている。</p> <p>県において、城山ダムの緊急放流への対応として、最大放流量の増加及び事前放流の運用を導入し、ダムの洪水調節機能を強化した。本市においては、緊急放</p>

	<p>流時の避難場所として、12箇所を新たに追加している。その中には、総合体育館や、市民健康文化センターなどが含まれている。</p> <p>風水害時避難場所は、市職員が開設・運営することとしており、本年7月に担当職員向けの「風水害時避難場所運営マニュアル」を作成し、研修等を通じて、避難者の受付や消毒方法、個人用防護具の着脱、避難者スペースのレイアウトなど、新型コロナウイルス感染症対策を考慮した手順の確認を行った。また、情報提供として避難所運営協議会、防災専門員に本マニュアルを配布している。</p> <p>コロナ禍における避難場所以外の分散避難を促していくため、市民の皆様、安全な場所にある親戚宅や知人宅への避難を検討いただくことを防災ガイドブックや広報さがみはら等で周知を行っている。</p> <p>市民の皆様が「いつ・どこに・どのように」避難するか、あらかじめ決めておくことが大変重要であることから、マイ・タイムラインをより取り組みやすくするため、作成ガイドブックをまちづくりセンター等へ配架したほか、さがみはら防災マイスターによる啓発動画を市ホームページに掲載するなど周知に努めている。麻溝地区については、8月に開催された自治会長会議の中で、マイ・タイムラインの作成方法の講習会を開催していただいたところである。</p> <p>今後については、災害時の分散避難を図るため、国・県の施設及びホテル等を活用することについて、関係機関と協議を行っている。</p> <p>風水害時避難場所をより円滑に運営するため、多数の避難者が見込まれる場合に備えて、避難者に配布する受付カードに避難場所運営の協力依頼について記載をしている。今後、避難所運営協議会等を通じて支援体制の構築について、意見交換に努めてまいりたい。</p> <p>麻溝地区については、防災専門員を2名選出しており、2名とも元市の消防職員の方である。防災専門員の方々とも避難所の運営体制や役割について意見交換に努めてまいりたい。</p> <p>ペットの同行避難については、受付カードの中に、注意事項を記載しておくとともに、番号を付番しペットのゲージに貼れるようにする対応を図っているところである。（危機管理局）</p>
--	--

懇談内容	
市の発言	<p>初めに、避難所と避難場所の違いについて、鈴木危機管理局長より説明させていただきたい。（市長）</p> <p>避難所については、地震時等に開設し、避難所運営協議会に運営していただくものであり、風水害時避難場所は、風水害時に開設し、市職員3名で対応するものである。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>避難所と避難場所は名称が非常に似ており、一般の方は違いがわからず混乱してしまう恐れがあるのではないかと。</p> <p>避難所と避難場所の区別を図るため、例えば、避難場所は「緊急避難場所」とするなど、違いをわかりやすくすることができないかと。</p>
市の発言	<p>昨年度から順次、各小中学校の校門に「緊急避難場所」と表記する対応を進めており、よりわかりやすいよう、ピクトグラムと呼ばれる絵文字を用いて、災害種別に応じた避難所の使用可否を示している。（危機管理局）</p>

地区の発言	一時避難場所の用途を教えてください。
市の発言	風水害時避難場所については、風水害時に市が指定をして開設するものである。 一時避難場所は、一時的に災害から難を逃れるため、各自治会の方で公園等を指定していただいているものである。（危機管理局）
地区の発言	11月に感染症流行下における夢の丘小学校避難所運営訓練を予定、ソーシャルディスタンスを含めた検証も行う。市が想定している夢の丘小学校体育館の収容可能人数は200名と聞いたが、収容可能人数は90名程で想定している。避難所運営協議会の想定との差が大きい。認識の調整をしてもらいたい。 体育館床面積を800㎡として単純に4㎡で算定している。体育館の中には防災備蓄倉庫の併設があり、扉前方部分の開閉スペース、通路の動線部分などは差し引くべき。また、避難所運営協議会では、ソーシャルディスタンスを保つため、一人当たり3.5m×3.5mの1区画が必要と考えており、体育館の避難可能な区画は30区画、収容可能人数は90名程と想定している。
市の発言	体育館は817㎡で204名受け入れできると計算している。加えて、普通教室を27教室確保しており、同様に4㎡で計算し432名と算定。合計で636名収容可能と考えている。避難所運営協議会で訓練を行う際には、是非、危機管理局の職員にもお声掛けいただき、一緒に検証等に参加させていただき、より良いものにしていきたい。（危機管理局）
地区の発言	昨年、夢の丘小学校の避難所を利用した際、駐車場に困った。避難者が多かったこともあり、校舎の周りに止まっている車の台数も多く、緊急車両が通れないという苦情もあった。校庭には駐車できないと聞いているが、他に駐車場を確保できないか。
市の発言	現在は、コロナ対策・分散避難の観点から、各小中学校の校庭への自動車による一時的な避難もできることになっている。（危機管理局）
地区の発言	風水害時避難場所は市職員が運営するとなっているが、避難所運営協議会が運営に加わっていないのはなぜか。避難場所と避難所を分けている理由は。
市の発言	風水害時避難場所は、台風や水害から一時的に難を逃れるという目的から、長期間の避難は想定していない。しかし、地震等による避難所については、住宅で生活ができなくなった場合、一定の期間を避難所で生活することを想定している。そのため、市職員のみでの対応では難しいため、避難所運営協議会を立ち上げ、運営いただく体制としている。（危機管理局）
地区の発言	風水害時には、避難所運営協議会は何もしなくてよいということか。
市の発言	市としても、避難所運営協議会から支援をいただけることは、大変ありがたい。有効な取り組みであると考えている。今後、避難所運営協議会や防災専門員等と意見交換をしながら、支援や役割について、確立させていきたいと考えている。（危機管理局）
地区の発言	昨今の豪雨災害について、他県の状況を見ていると、コロナ禍においては避難所の収容人数を減らさざるを得ないということであった。 本市でも避難所の収容人数を超える避難者が来てしまった場合はどうなるのか。

市の発言	<p>市ホームページで、区ごとに収容人数に達した避難所を掲載し、空きのある避難所に避難を促すようにしている。今後は、随時ホームページに避難者数や混雑状況等も掲載していきたいと考えている。</p> <p>また、市の指定避難所以外に、国・県の施設や民間の旅館・ホテル等にも避難ができるよう、現在協議を進めているところである。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>昨年の東日本台風の際、相陽中学校に多くの避難者が集まり、受付で名前の確認すらできなかつたと聞いている。誰が避難していたのか、確認できない事態にならないような対策が必要であると思った。</p>
市の発言	<p>昨年の東日本台風では、相陽中学校に515名の方が避難され、市内で避難者数が一番多い避難所であった。今後、避難者を確認できない事態にならないよう、分散避難の呼びかけを行ってまいりたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>九州の豪雨災害等でも車中泊をした方が多く、その中での問題は、避難者が確認できないこと及び災害時要援護者の確認できず、支援が滞ってしまったことであった。これらのことも踏まえて、今後のことを検討して欲しい。</p>
市の発言	<p>平時から、災害時要援護者や外国の方を含めた訓練等を行い、非常時に支援が滞らない体制をつくっていきたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>避難所の運営について、避難者に協力を求める考えであるとの話があったが、避難者は滞在時間が短い。受付が一番混乱するため、受付をする時点である程度の応援体制が必要なのではないか。避難所運営協議会としても協力したいという気持ちもあるため、協力を仰ぎながら、事前に受入れの体制を整えた上で、運営した方がよいのではないか。</p>
市の発言	<p>以前は、風水害時避難場所については短時間のため、市職員のみで対応していたが、現在は車避難や同行ペットの受け入れ、受付時の体温チェックの対応も必要となり、実際に市職員のみで対応するのは難しいと考えている。今後、避難所を円滑に運営していくために、避難所運営協議会と役割や協力体制について、話し合っていきたいと考えている。（副市長）</p>
地区の発言	<p>昨年の東日本台風時、相陽中学校の避難者数が非常に多かったと聞いているが、避難者に関するデータ分析等は行っているのか。データの分析をすることで、避難所の数や広さ等を予想することが可能となり、次に繋がってくるのではないか。</p>
市の発言	<p>当時、受付時の避難者カードへの記入ができなかつた等の状況から、データの分析はできていない状況である。今後の課題として、このようなことが起こらないよう取り組んでまいりたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>今後は、随時、市ホームページに避難者数や混雑状況等も掲載するとのことだが、ホームページやテレビのデータ放送を見られない高齢者等へ、100%情報を伝達させるための方法を検討してもらいたい。</p>
市の発言	<p>ホームページやデータ放送を見られない方々への情報伝達については、今後の訓練や研修等の機会を通じて検討し、多くの方に周知ができるよう取り組んでまいりたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>今回避難場所の追加指定として、総合体育館や市民健康文化センターが追加されたが、麻溝地区としては、想定避難者の居住地から距離があり、自動車等がない方々の避難は難しい。居住地の近辺で避難できる場所となると、自治会館や</p>

	<p>寺、神社や私立の学校等を準避難場所とすることや、それができた場合の支援物資の供給についても検討してもらいたい。</p> <p>また、コロナ禍においては分散避難をするよう呼び掛けられているが、市として、車中泊に対してはどのように考えているか、教えてもらいたい。</p>
市の発言	<p>自治会館を風水害時避難場所に指定することは難しいが、自主的に近くの自治会館へ避難することについては、大変有効な手段であると考えている。</p> <p>車中泊については、エコノミークラス症候群等の健康の観点から、推奨できるものではないが、ペットの同行や乳幼児がいる等の理由により、車中泊の希望も一定数あることは想定しており、今後の対応について検討している。</p> <p>風水害時避難場所については、避難が一時的かつ比較的短時間であることから、車で校庭等への避難もできることになっている。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>追加指定された避難場所の中には、若草中学校等の地区外の避難場所もあるが、やはり居住地から距離がある。居住地から近い総合体育館の駐車場は広いいため、車中泊ができるよう開放するなどを検討してもよいのではないか。</p>
市の発言	<p>公共施設の駐車場を活用した、車中泊についても、今後検討してまいりたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>ひばり放送について、放送が聞こえないという声をよく耳にする。コンピューターの声で放送していると思うが、聞き取りづらいため、改善してもらえないか。</p>
市の発言	<p>現在は、合成音声で対応しているが、より聞き取りやすい方法があるか、検討し、改善できる点については改善していきたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>災害時の自治会未加入者への情報伝達について。災害に関する情報の伝達方法や未加入世帯の把握等に課題を感じているが、市としての対応策があれば教えてもらいたい。</p>
市の発言	<p>自治会未加入者への情報伝達については、非常に難しい課題であると認識しているが、具体的な対応策については、検討した上で、後日回答させていただきたい。（危機管理局）</p>
地区の発言	<p>災害時は、行政だけでなく地域の協力も不可欠であるため、行政と地域の協力体制を築くことが大切であると思う。今後も対応策等の検討を引き続き進めてほしい。</p>
市の発言	<p>今後も意見交換を通じて、より効果的な対策について、検討を進めてまいりたい。（危機管理局）</p>

市長の感想等	<p>本日は、今年度初めてのまちづくり懇談会であったが、活発に意見を出していただき非常に嬉しく思う。</p> <p>昨年は、初めて城山ダムから緊急放流があり、今後は事前放流を実施することも視野に入っているが、市としては、県に対し厳しい意見を申し上げている。今後さらに、国や県との連携が必要であると認識している。</p> <p>これから、インフルエンザが流行する季節となるが、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染も懸念されている。市としては、インフルエンザの予防接種について、65歳以上の高齢者及び60歳から64歳までの心臓・腎臓・呼吸器などの機能に身体障害者手帳1級相当の障害をお持ちの方については、接種の無償化</p>
--------	--

を行っている。また、未就学児についても、予防接種の助成を行い、対策を進めているところである。

災害や感染症等、様々な問題がある中でも、自助・共助・公助を念頭に考えていかなければならないと思っている。東日本大震災時に「釜石の奇跡」という言葉がある。震災時に釜石市内の小中学校の児童、生徒が避難し、全員が無事であったが、その背景には日頃から「自分の身は自分で守る」という防災教育が徹底されていたことにある。このような、自助の精神も重要である。自分達にできることを考え、できる限りの備えをお願いしたい。

本日の懇談会の中で、東日本台風時のデータ分析が足りない点や、災害時の高齢者等への情報伝達に関するご指摘いただいた。テレビ神奈川やホームページへの掲載だけでは、確かにわかりづらい。ひばり放送が聞き取りづらい点に関しては常々言われており、今後、改善策を考えていかなければならないと思っている。藤野地区、相模湖地区では、防災行政無線が自宅内に設置されており、現在も配備を進めているところである。

先ほど自治会に関する話もあったが、麻溝地区は自治会加入率が54%弱で、市全体の加入率を上回っており、自治会活動も活発に行っているところであると思う。しかしながら、今年度の本市の自治会加入率は、政令指定都市20市のうち自治会加入率を測定している18市中、18位となっており、自治会加入率についても本市の課題であると認識している。是非、自治会加入促進についても中島会長を始め、地域の皆様にご支援いただきたい。

今後も麻溝地区に来た際には、地域の声を沢山お聞かせいただきたい。（市長）